

2018年度 業績の概要

2019年5月24日

日本生命保険相互会社
Nippon Life Insurance Company

目次

1 グループ概況

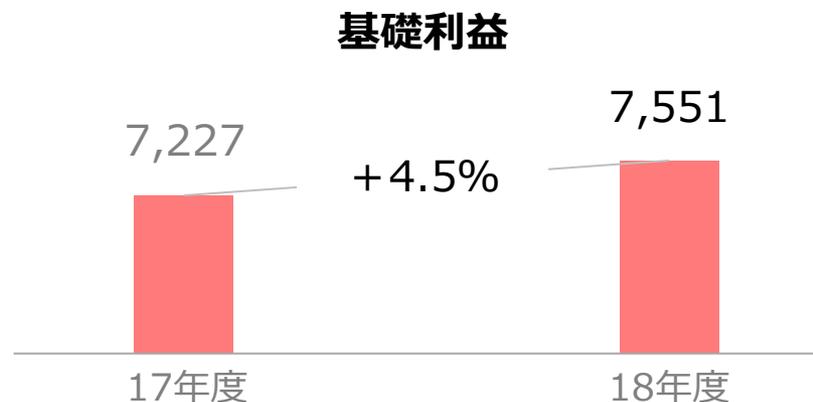
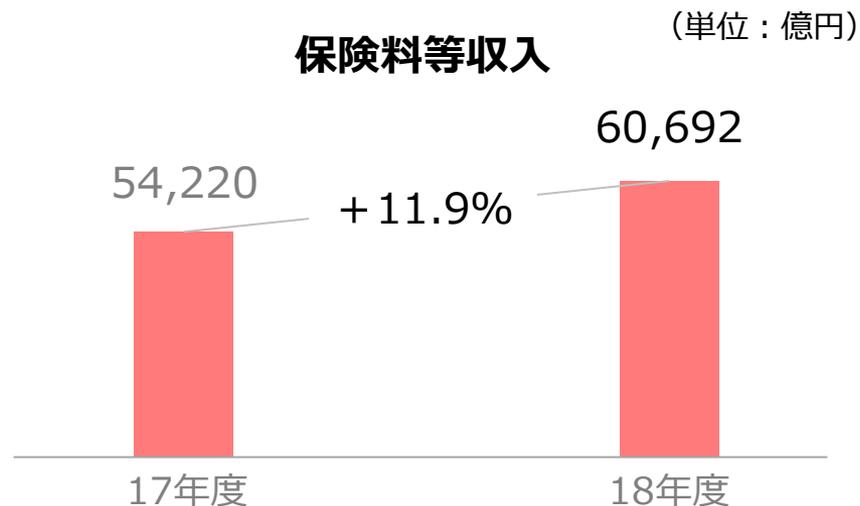
2 国内生命保険事業

3 業績見通し

4 数量目標の状況 「全・進-next stage-」

【参考】グループ各社の概況

- 2018年度決算の連結業績は、前年度から増収・増益。
- 保険料等収入は、日本生命での銀行窓販商品の販売増加や、商品相互供給等を通じた日本生命グループを挙げての保険販売等により増加。
- 基礎利益は、日本生命での利差益の増加を主因に増加し、開示以来最高益を確保。
- ニッセイ・ウェルス生命の新規連結により、保険料等収入、基礎利益ともに増加額が拡大。

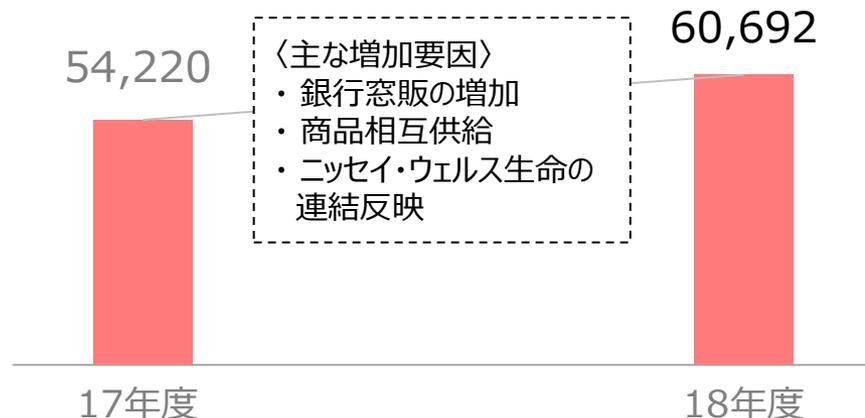


※ ニッセイ・ウェルス生命（旧マスマチュアル生命）を2018年度第1四半期から連結反映（以降同様）

- 銀行窓販の増加を主因に前年度より増収。
- 銀行窓販は、日本生命での外貨建商品の改定や円建商品の販売再開等により増加。
- また、商品相互供給を通じた日本生命グループを挙げての保険販売への取組、ニッセイ・ウェルス生命の連結反映が増収額拡大に寄与。

保険料等収入

(単位：億円)



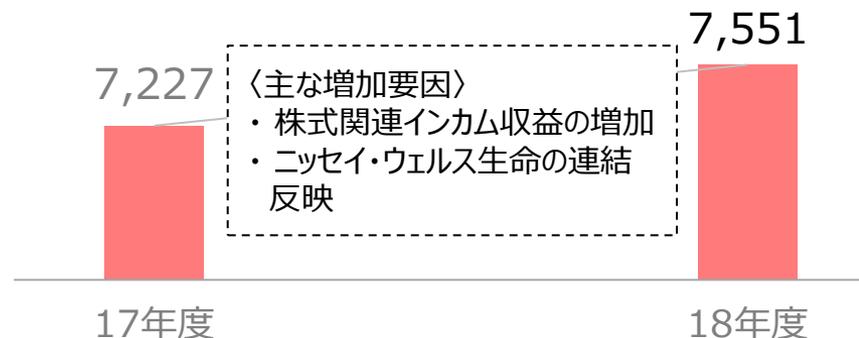
	2018年度	前年度比
保険料等収入	60,692	+11.9%
日本生命	47,751	+6.4%
大樹生命	7,677	+10.5%
ニッセイ・ウェルス生命	2,936	-
MLC	1,935	▲5.1%

※ 合計値は連結保険料等収入（日本生命、大樹生命（旧三井生命）、ニッセイ・ウェルス生命、MLC Limited（以下、MLC）、米国日生を対象に算出）

- 日本生命の利差益の増加を主因に前年度から増益となり、開示以来最高益を確保。
- 利差益は、国内株式配当金の増加や、外国株式等を保有する投資信託の分配金が増加したことを主因に増加。
- 更に、ニッセイ・ウェルス生命の連結反映により増益額が拡大。

(単位：億円)

基礎利益

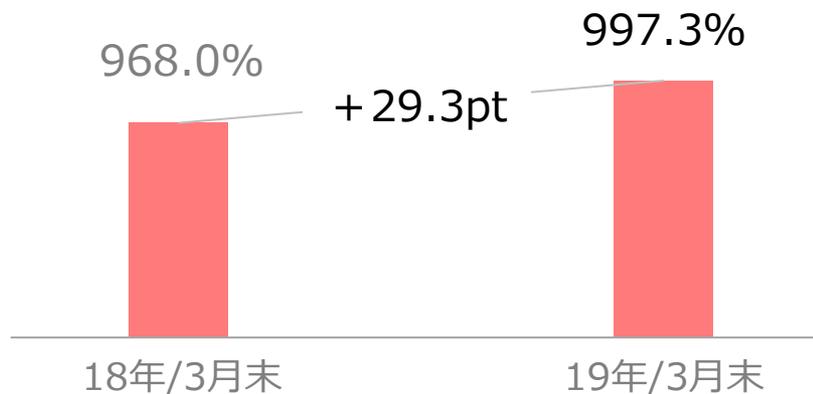


	2018年度	前年度比
基礎利益	7,551	+4.5%
利差益	2,347	+32.3%
保険関係損益	5,135	▲4.9%
日本生命	6,782	+1.5%
大樹生命	438	▲10.9%
ニッセイ・ウェルス生命	262	-
MLC	64	▲2.5%

※ 合計値は日本生命、大樹生命、ニッセイ・ウェルス生命の基礎利益、海外生命保険子会社・関連会社の税引前純利益に、持分比率、一部の内部取引調整等を行い算出
 ※ 利差益、保険関係損益は国内生命保険の合計

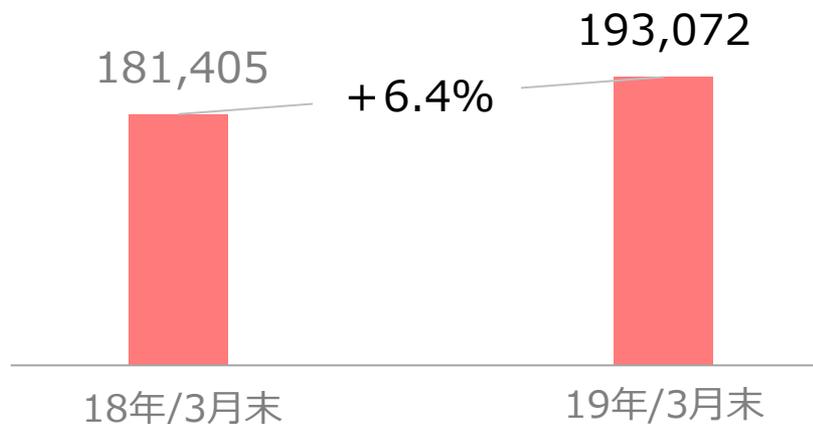
- ソルベンシー・マージン比率は、諸準備金等の積増や劣後ローン調達を通じて、自己資本を着実に積増したことを主因に前年度末から増加。
- 実質純資産についても、自己資本の積増に加え、国内外の金利低下によって有価証券の含み損益が増加したことを主因に前年度末から増加。

ソルベンシー・マージン比率



実質純資産

(単位：億円)



損益計算書

- 経常利益は減少したものの、当期純剰余は前年度より増加。

(単位：億円)

	2018年度	前年度比
経常収益	82,271	+8.1%
保険料等収入	60,692	+11.9%
資産運用収益	18,423	▲1.5%
経常費用	77,986	+9.3%
保険金等支払金	45,974	+4.3%
資産運用費用	3,717	▲3.2%
事業費	8,254	+4.6%
経常利益	4,284	▲9.2%
(基礎利益)	7,551	+4.5%
当期純剰余(利益)	2,787	+14.3%

貸借対照表

- 総資産・責任準備金ともに、前年度末から増加。

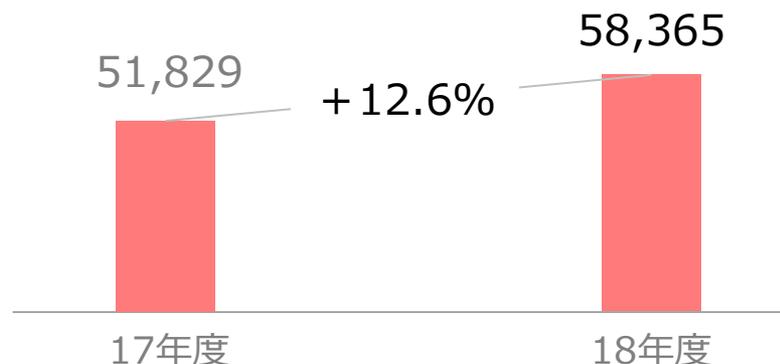
(単位：億円)

	2019年 3月末	前年度末比
総資産	788,095	+5.9%
うち有価証券	644,589	+7.2%
うち貸付金	85,105	▲1.4%
うち有形固定資産	19,076	+2.7%
負債	718,312	+6.5%
うち保険契約準備金	654,837	+6.4%
うち責任準備金	641,003	+6.6%
うち価格変動準備金	14,601	+8.5%
純資産	69,782	+0.8%

- 国内の保険料等収入は、個人保険・個人年金保険の増加を主因に前年度から増加。
- これは、日本生命における商品改定に伴う外貨建商品の好調な販売や、円建商品の販売再開等により、銀行窓販チャネルにて大幅増加となったことを主因とするもの。
更に、ニッセイ・ウェルス生命の連結反映により増加額が拡大。
- 団体保険は減少したものの、団体年金保険は増加。

保険料等収入（国内計）

（単位：億円）



	2018年度	前年度比
保険料等収入（国内計）	58,365	+12.6%
うち個人保険・個人年金保険	42,429	+18.4%
営業職員等チャネル	34,728	+3.2%
銀行窓販チャネル	7,700	+253.6%
うち団体保険	2,934	▲4.8%
うち団体年金保険	12,319	+0.5%

※ 日本生命、大樹生命、ニッセイ・ウェルス生命の合計値

- 国内の個人保険・個人年金保険の新契約は、経営者向け保険の販売減少による影響はあったものの、日本生命の新商品「ニッセイみらいのカタチ 特定重度疾病保障保険^{じょう}“だい杖ぶ”」(2018年4月発売)の販売や銀行窓販が好調であったことに加え、ニッセイ・ウェルス生命の連結反映を主因に前年度から増加。

(単位：億円、万件)

個人保険・個人年金保険

	年換算保険料		件数		保障額等	
	2018年度	前年度比	2018年度	前年度比	2018年度	前年度比
国内計	5,139	+38.6%	518	+36.4%	99,459	+30.8%
営業職員等チャンネル	3,235	▲6.9%	503	+34.7%	90,058	+23.9%
銀行窓販チャンネル	1,903	+713.9%	14	+139.6%	9,401	+178.4%
日本生命	3,112	▲3.4%	490	+38.5%	84,294	+28.0%
大樹生命	532	+9.3%	25	▲2.6%	11,333	+10.8%
ニッセイ・ウェルス生命	1,495	—	2	—	3,831	—

※ 国内計・チャンネル別内訳は、日本生命、大樹生命、ニッセイ・ウェルス生命の合計値

- 国内の個人保険・個人年金保険の保有契約は前年度より増加。
- 団体保険・団体年金保険についても、日本生命での着実な増加により順調に推移。

(単位：億円、万件)

個人保険・個人年金保険

	年換算保険料		件数		保障額等	
	2019年 3月末	前年度末比	2019年 3月末	前年度末比	2019年 3月末	前年度末比
国内計	45,346	+8.7%	3,479	+6.6%	1,820,496	+0.1%
日本生命	37,479	+2.2%	3,187	+6.0%	1,592,699	▲1.5%
大樹生命	5,223	+3.1%	260	+1.4%	195,927	▲2.8%
ニッセイ・ウェルス生命	2,643	-	31	-	31,869	-

団体保険・団体年金保険

	団体保険 (保障額等)		団体年金保険 (受託資産等)	
	2019年 3月末	前年度末比	2019年 3月末	前年度末比
国内計	1,096,952	+0.9%	167,845	+2.4%
日本生命	971,022	+1.7%	131,770	+2.5%
大樹生命	125,930	▲5.0%	8,096	▲2.2%

※ 国内計は、日本生命、大樹生命、ニッセイ・ウェルス生命の合計値
 ※ 団体年金保険の国内計には、ニッセイアセットマネジメントの投資顧問残高(23,738億円)、確定拠出年金の投資信託(日本生命販社分4,227億円)を含む

- 日本生命においては、個人保険・個人年金保険について、昨年度に引続き増配する方針。
- 大樹生命においても、11年ぶりにご契約者への配当を実施する方針。

ご契約者配当の方針 (個人保険・個人年金保険)

日本生命

- 個人保険・個人年金保険について、**2年連続で増配**する方針
 - 約1,025万件のご契約を対象にご契約者配当を実施
 - うち約340万件のご契約を対象に増配を実施

大樹生命

- 個人保険・個人年金保険について、**11年ぶりのご契約者配当を実施**する方針
 - 約5万件のご契約を対象にご契約者配当を実施

- 2019年度は日本生命グループ計で、前年度から減収・減益を見込む。
- 保険料等収入は、銀行窓販商品の更なる販売増を見込むものの、団体年金の減少や、経営者向け保険の販売減少等により減少を見込む。
- 基礎利益は、超低金利環境による利息減少が想定されることに加え、2018年度の保険料率改定による危険差益の減少や、金融機関代理店への支払手数料の増加を主因に減少を見込む。

(単位：億円、百万豪ドル)

	保険料等収入		基礎利益	
	2018年度	2019年度 見込み	2018年度	2019年度 見込み
グループ計	60,692	減少	7,551	減少
日本生命	47,751	減少	6,782	減少
大樹生命	7,677	増加	438	減少
ニッセイ・ウェルス生命	2,936	増加	262	減少
MLC	1,940	減少	78	減少

- ※ 保険料等収入のグループ計は、連結保険料等収入（日本生命、大樹生命、ニッセイ・ウェルス生命、MLC、米国日生を対象に算出）
- ※ 基礎利益のグループ計は、日本生命の基礎利益、大樹生命の基礎利益、ニッセイ・ウェルス生命の基礎利益、海外生命保険子会社・関連会社の税引前純利益に、持分比率、一部の内部取引調整等を行い算出
- ※ MLCは収入保険料と、税引前利益に持分比率を乗じた数値（現地通貨ベース）

4 数量目標の状況 「全・進-next stage-」



- 中期経営計画「全・進-next stage-」(2017-2020)にて掲げた数量目標は概ね順調な進捗状況。
- 「保有年換算保険料」、「お客様数」、「グループ事業純利益」、「自己資本」の全項目において、いずれも目標達成に向けて堅調に推移。

保有年換算保険料

+8%
(16→20年度末)

+5.2%
(16→18年度末)

お客様数

1,400万名
(20年度末)

1,383万名
(18年度末)

グループ事業純利益

700億円
(20年度)

565億円
(18年度)

自己資本

6.5兆円
(20年度末)

6.24兆円
(18年度末)

- ※ 保有年換算保険料およびお客様数は、日本生命と大樹生命の合計値
- ※ グループ事業純利益は、大樹生命、ニッセイ・ウェルス生命、海外生命保険・アセットマネジメント事業子会社等の当期純利益に、持分比率、一部費用の調整等を行い算出(日本生命は除く)
- ※ 自己資本は、日本生命単体数値

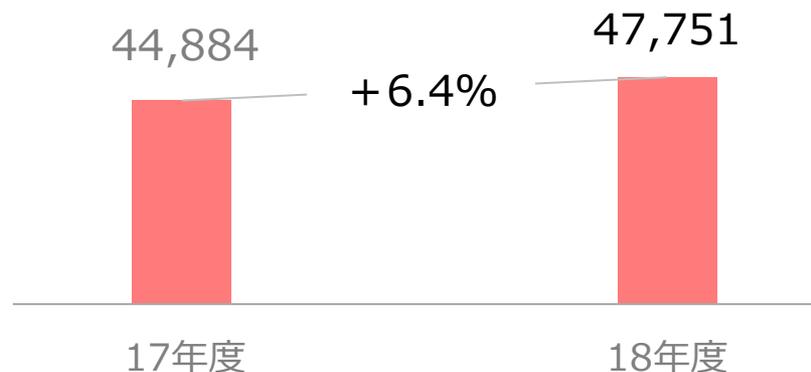
【参考】
グループ各社の概況

【参考】日本生命（単体）：収支

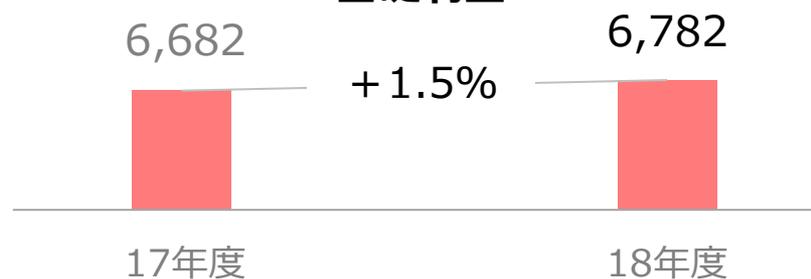
(単位：億円)

- 日本生命単体は前年度より増収・増益。
- 保険料等収入は、外貨建商品「ロングドリームGOLD 2」（ニッセイ指定通貨建積立利率変動型一時払終身保険）の商品改定(2018年10月)や、円建商品「夢のかたちプラス」（ニッセイ予定利率変動型一時払遡増終身保険）の販売再開(2018年8月)等による銀行窓販チャネルでの増加を主因に増加。
- 基礎利益は、株式関連の配当金・投信分配金の増加を主因に、利差益が増加したことから増益を確保。

保険料等収入



基礎利益



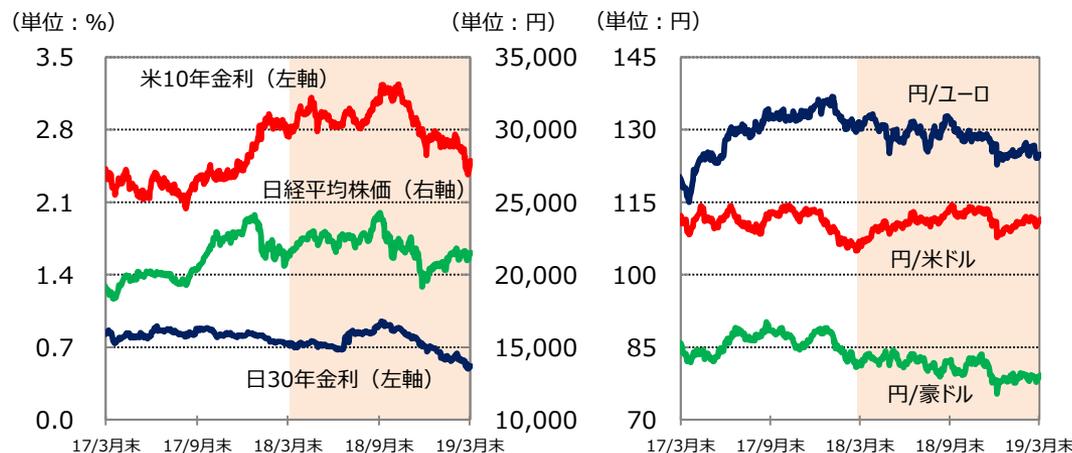
	2018年度	前年度比
基礎利益	6,782	+1.5%
利差益	2,340	+15.2%
費差益	261	▲29.0%
危険差益	4,179	▲2.4%

資産運用収支（一般勘定）（単位：億円）

- 資産運用収支は前年度より増加。
- 資産運用収益は、株式関連の配当金・投信分配金が増加したこと等を主因に増加。
- 資産運用費用は、有価証券売却損が増加したこと等を主因に増加。

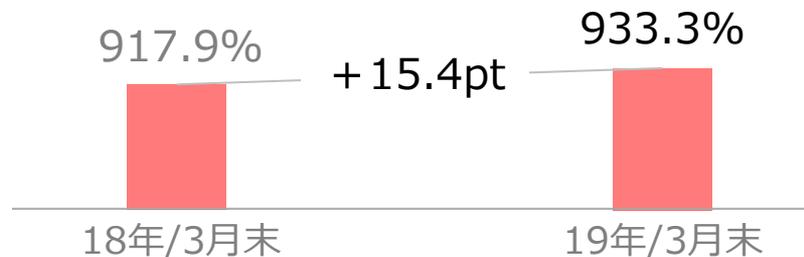
	2018年度	前年度差
資産運用収益	16,326	+296
うち利息及び配当金等収入	14,276	+203
うち有価証券売却益	1,949	+152
資産運用費用	3,451	+209
うち有価証券売却損	1,387	+359
うち有価証券評価損	213	+101
うち金融派生商品費用	931	▲127
資産運用収支	12,875	+87

マーケット状況



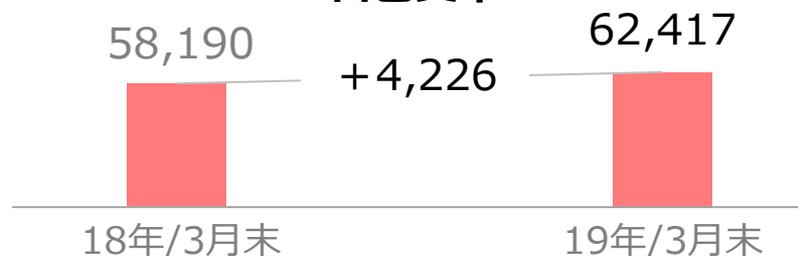
- 劣後ローン調達に加え、危険準備金・価格変動準備金の着実な積増等によって、自己資本が前年度末から増加したことを主因にソルベンシー・マージン比率は増加。
- 有価証券の含み損益は、株価下落により国内株式の含み損益が減少したものの、金利低下に伴う内外債券の含み損益が増加したことを主因に前年度末から増加。

ソルベンシー・マージン比率



自己資本

(単位：億円)



有価証券 含み損益

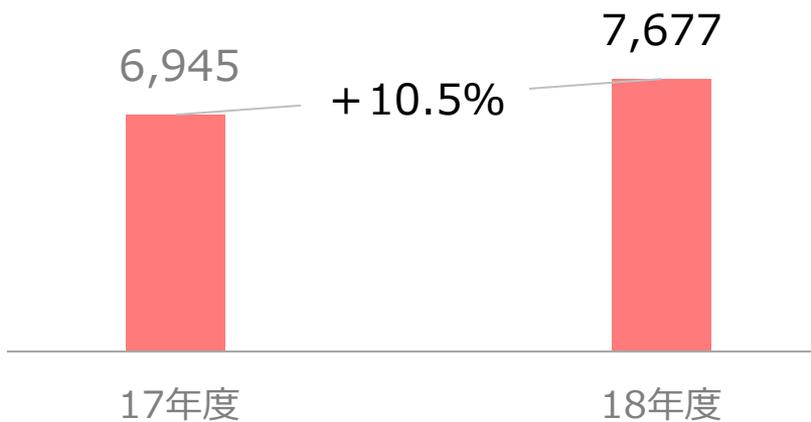
(単位：億円)

	2019年 3月末	前年度末差
時価のある有価証券	108,972	+3,499
公社債	42,990	+4,155
国内株式	41,777	▲ 6,216
外国証券	21,515	+4,859
その他	2,689	+700

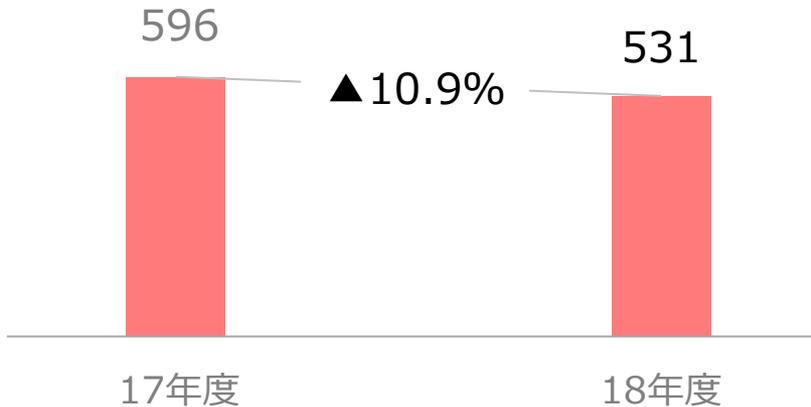
(単位：億円)

- 大樹生命は前年度から増収・減益。
- 保険料等収入は、2017年10月より開始した日本生命への外貨建商品「ドリームロード」（無配当一時払外貨建生存給付金付特殊養老保険）の供給が奏功したこと等を主因に増加。
- 基礎利益は、利差損益が予定利息負担の減少等により改善したものの、危険差益が料率改定等により減少したこと等により減少。

保険料等収入



基礎利益

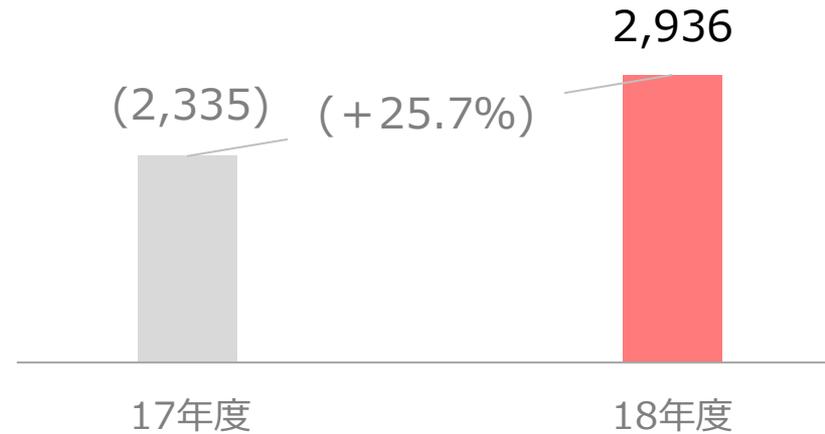


※ 単体の数値を記載

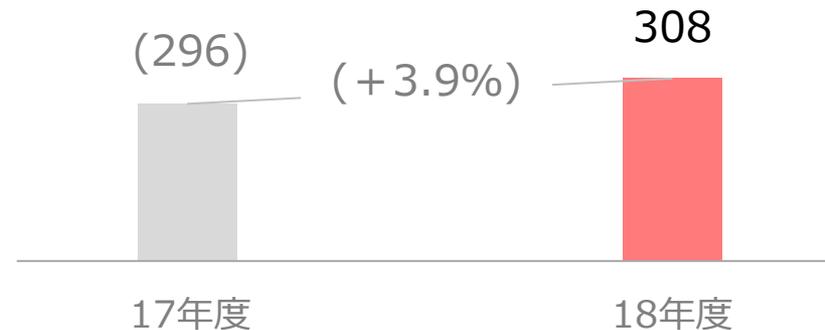
(単位：億円)

- ニッセイ・ウェルス生命は前年度より増収・増益。
- 保険料等収入は、相対的に高い米金利水準等によって米ドル建一時払商品の魅力が向上したことで、主力商品の定額年金や生存給付金付終身保険の販売が好調となったことを主因に増加。
- 基礎利益は、利息及び配当金等収入の増加を主因に増加。

保険料等収入



基礎利益



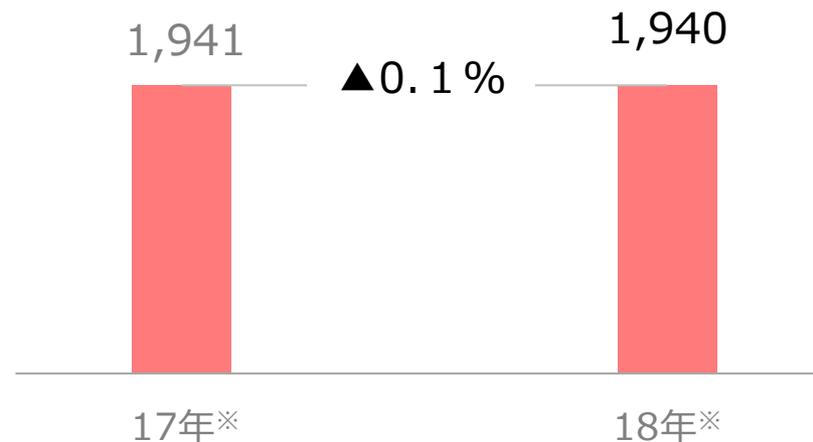
※ 単体の数値を記載

※ 2018年度から連結反映を行ったため、前年度の値および増加率は()にて記載

(単位：百万豪ドル)

- MLCは、前年から収入保険料は横ばい、税引前利益は増加。
- 収入保険料は、規制変更や競争環境が厳しさを増すなか、前年並みの水準を確保。
- 税引前利益は、保険販売関連費用の減少等により増加。

収入保険料



税引前利益



※ 単体の数値を記載

※ 年度決算では1-12月期を連結反映